平成25年度学校保健統計調査結果

京 都 の 子 は ス リ ム ？

－肥満傾向児の出現率　男女ともほとんどの年齢で全国平均を下回る－

10年前に比べ７歳女子以外の全ての年齢で体重減

府調査統計課生活統計担当

はじめに

学校保健統計調査（統計法に基づく基幹統計調査）は、学校保健安全法により各学校が毎年４月から６月の間に実施している健康診断の結果に基づき、幼児、児童及び生徒の発育及び健康状態を明らかにし、学校保健行政のための基礎資料を得ることを目的として、文部科学省が都道府県を通じて調査を実施しています。

この度、平成25年度の調査結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

調査対象として抽出された府内の国・公・私立の学校162校の幼児、児童及び生徒についての発育状態調査（身長、体重、座高）及び健康状態調査（各種の疾病・異常）の結果を掲載しています。

調査対象となった幼児・児童・生徒数は表１のとおりです。

表１　調査対象幼児・児童・生徒数

区分	調査実施学校数(校)	調査対象者数(人)					
		発育状態調査			健康状態調査		
		合計	男子	女子	合計	男子	女子
幼 稚 園	33	1,307	660	647	2,130	1,072	1,058
小 学 校	60	5,632	2,811	2,821	28,476	14,584	13,892
中 学 校	39	4,492	2,274	2,218	20,273	10,863	9,410
高等学校	30	2,578	1,304	1,274	24,145	12,455	11,690
合　計	162	14,009	7,049	6,960	75,024	38,974	36,050

発育状態

１　身長・体重・座高の京都府平均値及び全国との比較

（第１表、第２表）

平成25年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重及び座高の京都府平均値を年齢別にみると第１表のとおりです。

【身　長】

男子は５歳、６歳、14歳及び17歳で、前年度の同年齢を下回っています。各年齢間の身長差は12歳と13歳の間（7.4cm）が最も大きく、次いで11歳と12歳の間（6.9cm）が大きくなっています。全国平均値と比較すると、６歳(同値)、12歳及び14歳以外の各年齢で上回っています。

女子は５歳、13歳、14歳及び17歳の各年齢で、前年度の同年齢を下回っています。各年齢間の身長差は10歳と11歳の間（7.0cm）が最も大きく、次いで８歳と９歳の間（6.4cm）が大きくなっています。全国平均値と比較すると、10歳（同値）と17歳以外の各年齢で上回っています。

９歳から11歳では、女子の身長が男子の身長を上回っています。

【体　重】

男子は６歳、11歳、17歳及び15歳の各年齢で前年度の同年齢を下回っています。各年齢間の体重差は、11歳と12歳の間（5.8kg）が最も大きく、次いで14歳と15歳の間(5.7kg)が大きくなっています。全国平均値と比較すると、９歳、10歳、15歳及び17歳を除く各年齢で下回っています。

女子は５歳、13歳、14歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢を下回っています。各年齢間の体重差は、10歳と11歳の間（5.0kg）が最も大きく、次いで11歳と12歳の間（4.6kg）が大きくなっています。全国平均値と比較すると、７歳、８歳（同値）及び16歳以外の年齢で下回っています。

11歳では、女子の体重が男子の体重を上回っています。

【座　高】

男子は12歳、14歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢を下回っています。各年齢間の座高差は、12歳と13歳の間（3.9cm）が最も大きく、次いで11歳と12歳の間（3.7cm）が大きくなっています。全国平均値との比較では、５歳と11歳で下回っています。

女子は８歳、10歳、11歳、13歳、14歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢を下回っています。各年齢間の座高差は、10歳と11歳の間（3.5cm）が最も大きく、次いで11歳と12歳の間（3.3cm）が大きくなっています。

全国平均値との比較では、５歳、10歳及び11歳の各年齢で下回っています。

９歳～12歳では、女子の座高が男子の座高を上回っています。

２　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

（表２）

肥満(痩身)傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から求めた肥満度が20%以上(－20%以下)の者のことで、＜(実測体重－身長別標準体重)÷身長別標準体重×100＞により計算します。

【肥満傾向児】

肥満傾向児の出現率は、男子では15歳で11.61%と最も高くなっています。女子では16歳で8.85%と最も高くなっています。

全国の出現率と比較すると、男子の15歳と17歳、女子の16歳を除くすべての年齢で下回っています。

なお、６歳の数値は、男女とも全国で最も低い数値です。

【痩身傾向児】

痩身傾向児の出現率は、男子では10歳、11歳及び16歳で３%を超えており、11歳が4.56%と最も高くなっています。女子では10～14歳と16歳で３%を超えており、11歳が5.87%と最も高くなっています。

全国の出現率と比較すると、男子では６歳、８歳及び14歳以外の年齢で、女子では５歳、10歳、11歳、13歳、14歳及び16歳で下回っています。

なお、男子の５歳と16歳、女子の14歳は、全国で最も高い数値です。

表２　年齢別　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率　（単位：%）

	男子				女子			
	肥満傾向児		痩身傾向児		肥満傾向児		痩身傾向児	
	京都	全国	京都	全国	京都	全国	京都	全国
５歳	1.50	2.38	1.53	0.36	1.58	2.49	0.42	0.34
６歳	2.08	4.18	0.22	0.39	1.57	3.91	0.51	0.62
７歳	4.78	5.47	0.43	0.40	4.16	5.38	0.53	0.66
８歳	5.75	7.26	0.97	0.98	4.08	6.31	0.85	1.06
９歳	8.05	8.90	2.01	1.78	5.28	7.58	1.72	1.90
10歳	8.07	10.90	3.05	2.48	5.02	7.96	3.10	2.89
11歳	6.37	10.02	4.56	2.90	7.57	8.69	5.87	2.74
12歳	9.43	10.65	2.98	2.43	7.21	8.54	4.01	4.16
13歳	7.65	8.97	1.78	1.46	7.51	7.83	4.69	3.48
14歳	7.81	8.27	0.63	1.57	7.01	7.42	4.91	2.68
15歳	11.61	11.05	2.86	2.70	4.81	8.08	2.58	2.69
16歳	9.67	10.46	4.05	1.88	8.85	7.66	3.27	1.98
17歳	11.22	10.85	2.24	1.84	6.44	7.83	0.54	1.72

注：肥満(痩身)傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上(－20%以下)の者である。
肥満度＝(実測体重－身長別標準体重)÷身長別標準体重×100(%)

（参考）10年前の体重との比較

（参考表）

今回の調査結果を、10年前の平成15年度の結果と比較すると、７歳女子を除く全ての年齢で体重が減少しています。男子では12歳、13歳及び17歳、女子では10歳と12～15歳で１.0kg以上減少しており、特に12歳男子では1.6kg、13歳女子では1.7kgと大幅な減少になっています。

（参考表）年齢別体重の10年前との比較（京都府）　（単位：kg）

	平成25年度		平成15年度		増減	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
５歳	18.7	18.1	18.9	18.5	△0.2	△0.4
６歳	21.1	20.6	21.3	21.2	△0.2	△0.6
７歳	23.8	23.6	23.9	23.4	△0.1	0.2
８歳	26.8	26.4	27.2	26.6	△0.4	△0.2
９歳	30.6	29.9	31.1	30.1	△0.5	△0.2
10歳	34.4	33.5	34.5	34.8	△0.1	△1.3
11歳	37.5	38.5	37.9	39.3	△0.4	△0.8
12歳	43.3	43.1	44.9	44.2	△1.6	△1.1
13歳	48.7	46.7	49.7	48.4	△1.0	△1.7
14歳	53.9	49.4	54.6	50.5	△0.7	△1.1
15歳	59.6	50.6	60.0	51.7	△0.4	△1.1
16歳	60.8	53.0	61.5	53.2	△0.7	△0.2
17歳	62.9	52.3	63.9	53.1	△1.0	△0.8

３　親の世代(30年前の昭和58年度の数値)との比較

（第３表、図１）

【身　長】

平成25年度の身長を親の世代（30年前の昭和58年度の数値）と比較すると、最も差がある年齢は、男子では11歳で親の世代より2.0cm高く、次いで10歳と12歳で1.8cm高くなっています。女子では10歳で親の世代より1.9cm高く、次いで９歳で1.5cm高くなっています。

【体　重】

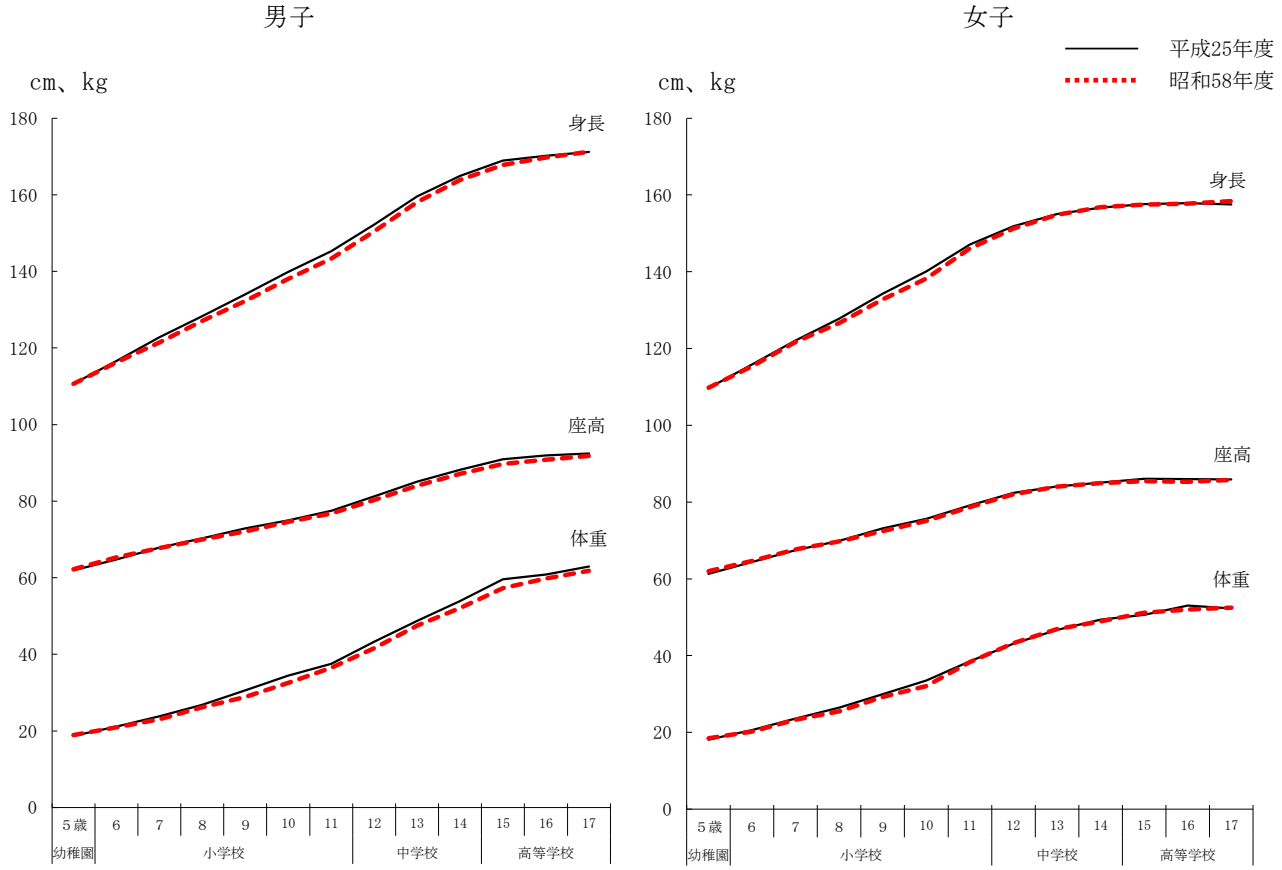
平成25年度の体重を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は、男子では15歳で親の世代より2.3kg重く、次いで10歳で1.9kg重くなっています。女子では10歳で親の世代より1.4kg重く、次いで16歳で1.0kg重くなっています。

【座　高】

平成25年度の座高を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は、男子では15歳で親の世代より1.2cm高く、次いで13歳・14歳・16歳の各年齢で1.1cm高くなっています。女子では９歳・15歳・16歳の各年齢で親の世代より0.7cm高く、５歳で親の世代より0.7cm低くなっています。

身長から座高を引いた足の長さについて、親の世代との比較で最も差があるのは、男子では10歳で1.4cm長く、 次いで11歳で1.3cm長くなっています。女子では10歳で1.4cm長く、次いで８歳で1.1cm長くなっています。

図１　年齢別体格の状況

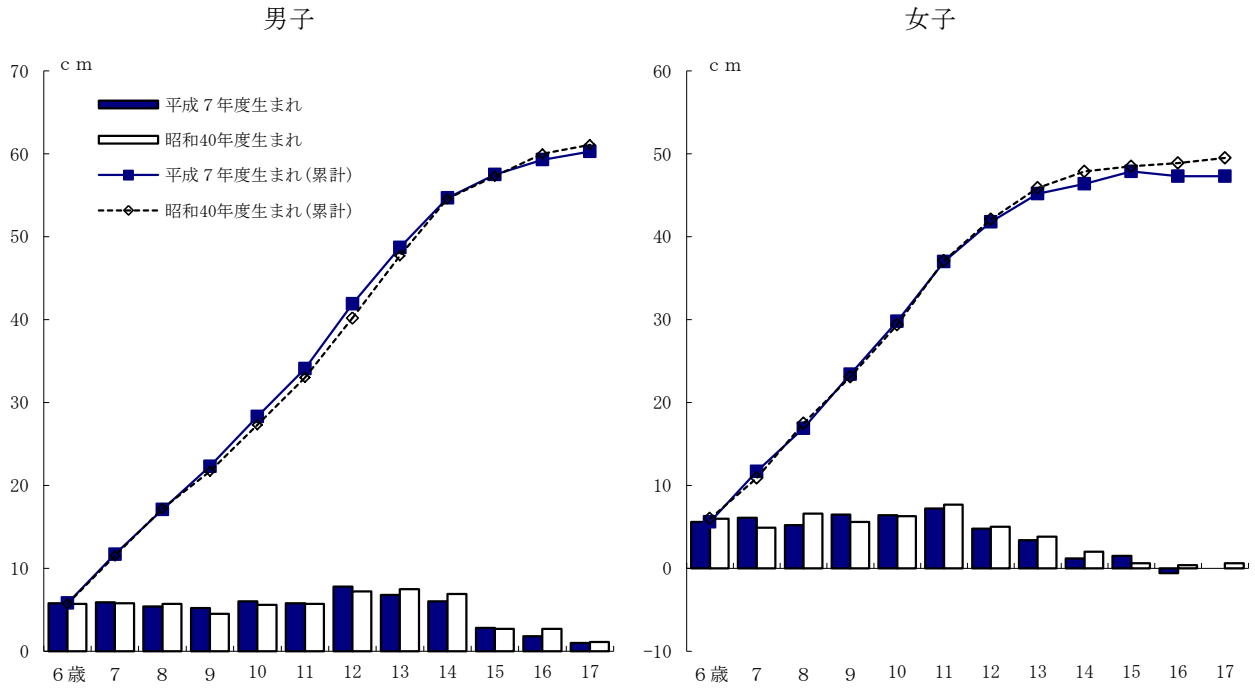


４　発育量の累計　親の世代との比較

（図２、図３、第４表、第５表）

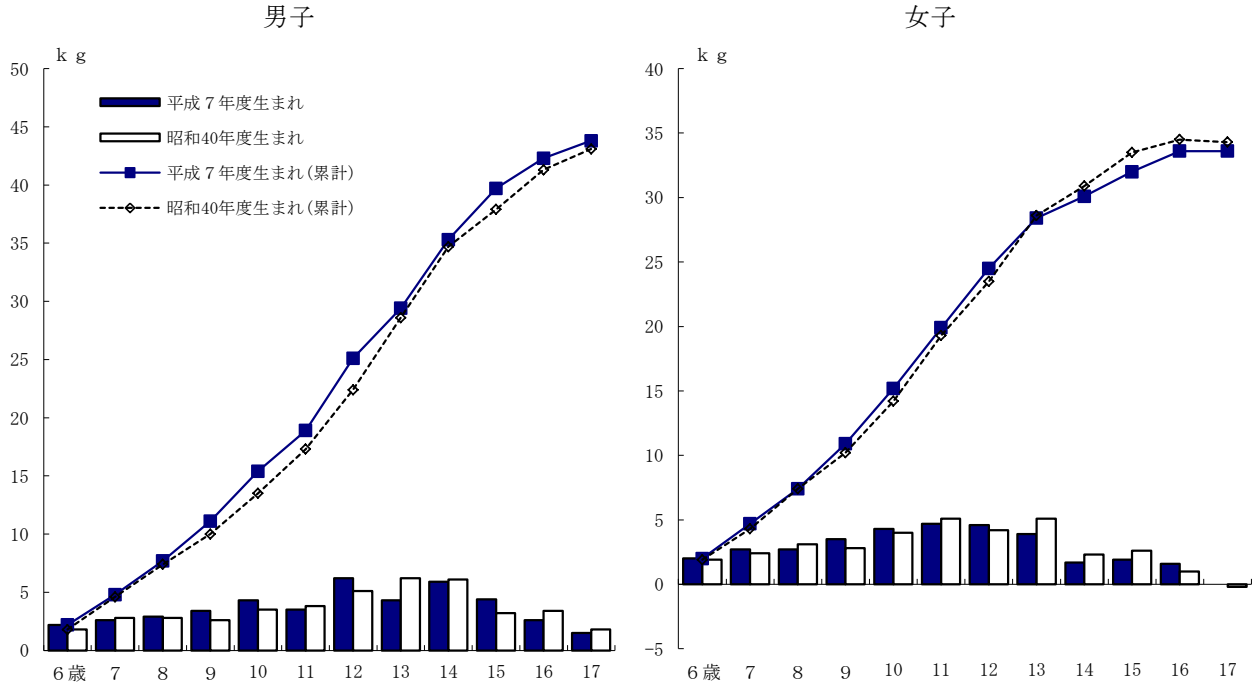
平成７年生まれの者（平成25年度17歳、以下「子の世代」という。）と昭和40年生まれの者（昭和58年度17歳、以下「親の世代」という。）の５歳から17歳までの発育量の累計を比較すると、男子は親の世代が身長で0.8cm上回っているのに対し、体重は子の世代が0.7kg上回っています。一方、女子は親の世代が身長で2.2cm、体重で0.7kg上回っています。

図２　発育量の累計、親の世代との比較（身長）



注：「６歳」とは５→６歳間の成長量である（以下同じ）。

図３　発育量の累計、親の世代との比較（体重）



注：図２の注に同じ。

健康状態

１　疾病・異常の被患率等別の状況

（表３）

疾病・異常を被患率等別にみると、「むし歯（う歯）」と「裸眼視力1.0未満の者」が他の疾病・異常に比べて高く、各学校段階で最高かそれに次ぐ高さとなっています。

２　主な疾病・異常等

（表３、第６表、第７表）

【裸眼視力1.0未満】

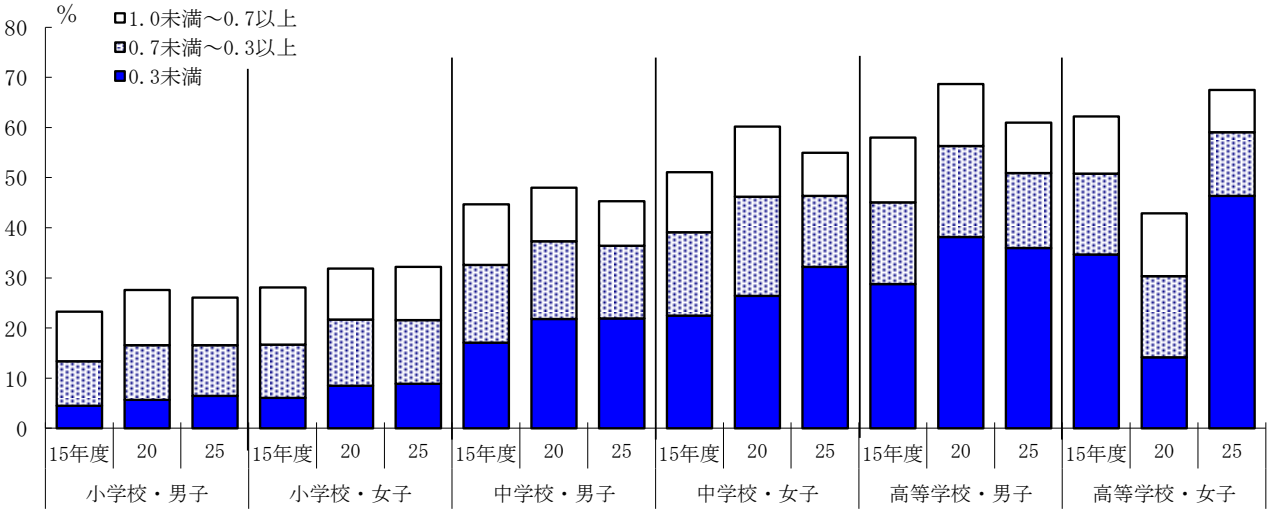
（図４）

平成25年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、幼稚園17.0％、小学校29.1％、中学校50.1％、高等学校64．2％となっており、前年度と比べると、全ての学校段階で低下しています（幼稚園の前年度は非公表）。10年前の平成15年度と比較すると、幼稚園と高等学校で低下、小学校と中学校で上昇しています。

全国平均値との比較では、京都府は全ての学校段階で下回っています。また、７歳を除いて男子より女子の被患率が上回っています（女子の５歳及び13歳は非公表）。

（平成24年度の男女の５歳、25年度の女子の５歳及び13歳の裸眼視力1.0未満の者の割合については、疾病・異常被患率等の標準誤差が５％以上、受検者数が100人（５歳は50人）未満または回答校が１校以下のため統計数値を公表していません。）

図４　裸眼視力1.0未満の者の推移



注：幼稚園は、25年度女子の数値が非公表のため掲載していない。

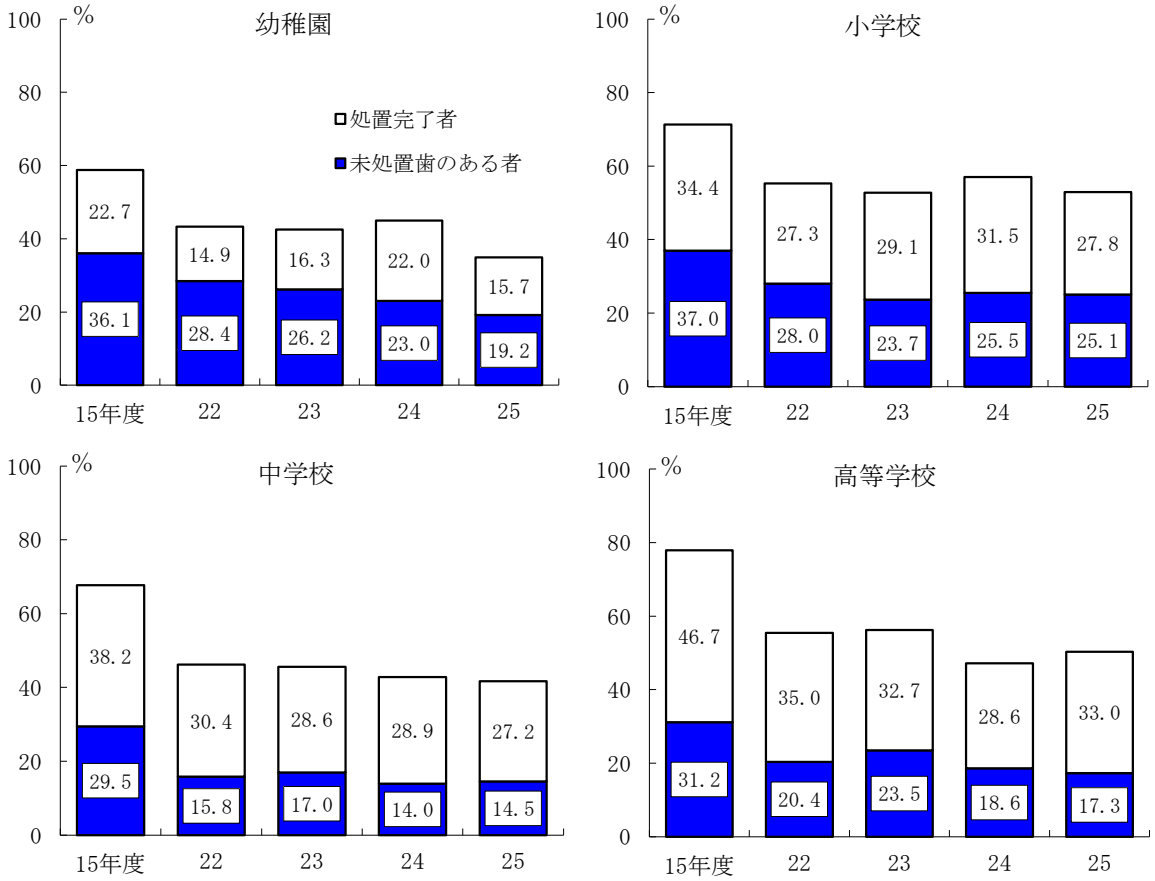
【むし歯（う歯）】

（図５）

平成25年度の「むし歯」の者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は、幼稚園34.9％、小学校52.9％、中学校41.7％、高等学校50.3％となっており、前年度と比べると高等学校で上昇、幼稚園、小学校及び中学校で低下しています。10年前の平成15年度と比較すると、平成25年度は各学校段階で18.4～27.6ポイント低下しています。

全国平均値と比較すると、京都府は全ての学校段階で下回っています。

図５　むし歯（う歯）被患率の推移



【鼻・副鼻腔疾患】　（表４）

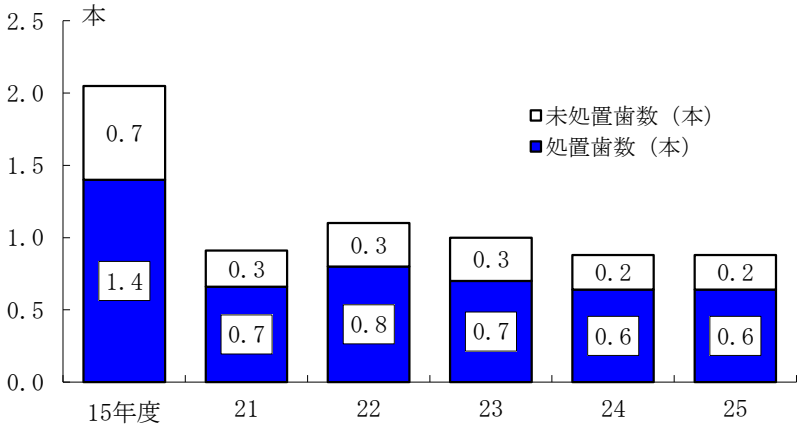
平成25年度の「鼻・副鼻腔疾患」（蓄のう症、アレルギー性鼻炎等）の者の割合は、幼稚園2.0%、小学校10.2%、中学校9.1%、高等学校8.2%となっており、前年度と比べると全ての学校段階で低下しています。全国平均値と比較すると、京都府は全ての学校段階で下回っています。

【12歳の永久歯の１人当たり平均むし歯（う歯）等数】　（図６）

12歳の永久歯の１人当たり平均むし歯等（喪失歯及び処置歯数を含む）の「むし歯」数をみると、0.9本となっており、10年前の平成15年度と比較すると1.2本減少しています。

「むし歯」数について全国平均値と比較すると、京都府は0.1本下回っています。

図６　12歳の永久歯の１人当たり平均むし歯（う歯）等数



注：四捨五入の関係で、内訳の計と総数とが一致しない場合がある。

【アトピー性皮膚炎】　（表４）

平成25年度のアトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園1.9%、小学校3.6%、中学校3.3%、高等学校2.7%となっています。前年度と比べると、中学校で上昇し、幼稚園と小学校で低下しています（高等学校は同率）。全国平均値と比較すると、京都府は幼稚園以外の各学校段階で上回っています。

【ぜん息】　（図７）

平成25年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園1.9%、小学校3.8%、中学校3.3%、高等学校2.1%となっており、前年度と比べると中学校と高等学校で上昇しています。10年前の平成15年度と比較すると、すべての学校段階で上昇しています。全国平均値と比較すると、京都府は中学校と高等学校で上回っています。

図７　ぜん息の者の推移

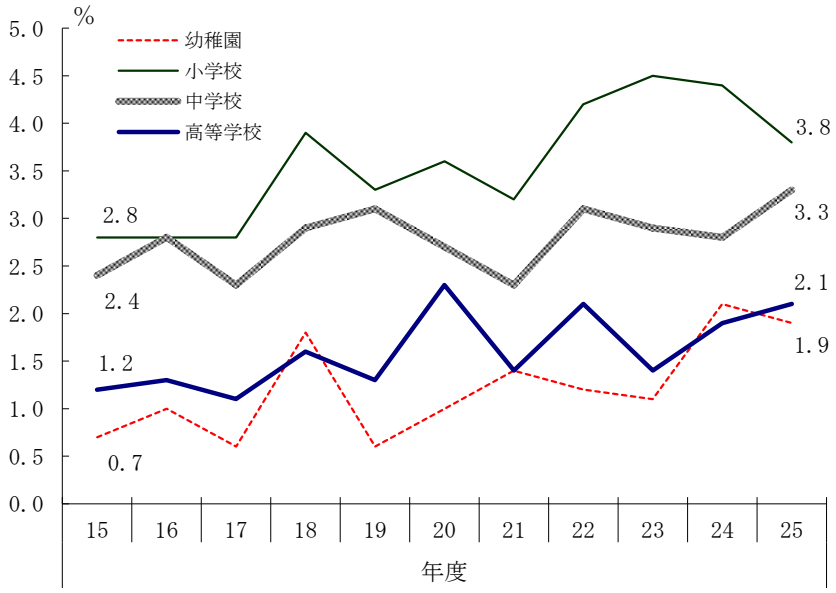


表３　疾病・異常の被患率等

区　　分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校
70%以上					
60以上　～ 70未満					裸眼視力1.0未満の者
50　～ 60			むし歯（う歯）	裸眼視力1.0未満の者	むし歯（う歯）
40　～ 50				むし歯（う歯）	
30　～ 40		むし歯（う歯）			
20　～ 30			裸眼視力1.0未満の者		
10　～ 20		裸眼視力1.0未満の者	鼻・副鼻腔疾患		
1　～ 10	8%以上～10%未満			鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患
	6　～ 8		眼の疾病・異常、耳疾患	眼の疾病・異常、歯列・咬合、歯垢の状態、歯肉の状態	
	4　～ 6		歯列・咬合、(歯・口腔)その他の疾病・異常、心電図異常	耳疾患、心電図異常	眼の疾病・異常、歯垢の状態、歯肉の状態、心電図異常
	2　～ 4	眼の疾病・異常、耳疾患、鼻・副鼻腔疾患、歯列・咬合	歯垢の状態、栄養状態、アトピー性皮膚炎、ぜん息、その他の疾病・異常	(歯・口腔)その他の疾病・異常、アトピー性皮膚炎、蛋白検出の者、ぜん息、その他の疾病・異常	耳疾患、歯列・咬合、アトピー性皮膚炎、蛋白検出の者、ぜん息、その他の疾病・異常
	1　～ 2	アトピー性皮膚炎、その他の皮膚疾患、ぜん息	歯肉の状態、心臓の疾病・異常	栄養状態、心臓の疾病・異常	心臓の疾病・異常
0.1　～　1	0.5　～ 1	口腔咽喉頭疾患・異常、(歯・口腔)その他の疾病・異常、せき柱、胸郭	口腔咽喉頭疾患・異常、その他の皮膚疾患、蛋白検出の者	せき柱・胸郭	口腔咽喉頭疾患・異常、(歯・口腔)その他の疾病・異常、栄養状態、せき柱・胸郭
	0.1　～ 0.5	歯垢の状態、歯肉の状態、栄養状態、心臓の疾病・異常、蛋白検出の者、その他の疾病・異常	難聴、せき柱・胸郭、結核の精密検査の対象者、寄生虫卵保有者、腎臓疾患、言語障害	難聴、口腔咽喉頭疾患・異常、顎関節、その他の皮膚疾患、結核の精密検査の対象者、尿糖検出の者、腎臓疾患、言語障害	難聴、顎関節、その他の皮膚疾患、結核、尿糖検出の者、腎臓疾患
0.1%未満		顎関節、寄生虫卵保有者、腎臓疾患、言語障害	顎関節、結核、尿糖検出の者	結核	言語障害

注　1　「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。
　　2　「(歯・口腔)その他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、だ石等のある者等である。
　　3　「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
　　4　「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
　　5　「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常の者である。

表４　主な疾病・異常等の推移総括表

(%)

区　分		裸眼視力1.0未満の者	耳疾患	鼻・副鼻腔疾患	口腔咽喉頭疾患・異常	むし歯（う歯）	アトピー性皮膚炎	心電図異常	蛋白検出の者	寄生虫卵保有者	ぜん息
幼稚園	平成15年度	25.3	2.2	3.0	3.2	58.8	…	…	0.3	0.4	1.5
	21	X	1.8	3.1	3.3	42.3	4.6	0.0	1.4	0.1	1.4
	22	X	2.3	7.6	3.5	43.4	4.7	0.0	0.5	0.1	1.2
	23	X	2.6	4.4	3.1	42.5	4.0	0.0	0.7	0.2	1.1
	24	X	5.3	5.0	1.8	45.0	4.0	…	1.2	0.1	2.1
	25	**17.0**	**2.2**	**2.0**	**0.8**	**34.9**	**1.9**	**…**	**0.4**	**－**	**1.9**
小学校	平成15年度	25.6	4.5	11.1	2.2	71.3	…	2.3	0.6	0.8	2.9
	21	33.5	5.7	14.3	1.6	56.8	4.6	4.6	0.9	0.5	3.2
	22	30.7	6.8	13.5	1.5	55.3	4.7	4.0	0.5	0.9	4.2
	23	30.5	6.7	13.0	0.9	52.8	3.5	4.3	0.6	0.4	4.5
	24	30.3	6.5	14.2	1.1	57.0	4.3	5.5	0.7	0.5	4.4
	25	**29.1**	**6.9**	**10.2**	**0.7**	**52.9**	**3.6**	**4.9**	**0.7**	**0.2**	**3.8**
中学校	平成15年度	47.8	2.7	10.1	1.2	67.7	…	3.5	1.9	…	2.3
	21	48.2	4.1	12.5	0.6	47.0	2.4	5.0	2.6	…	2.3
	22	56.0	4.5	11.4	1.0	46.2	3.1	5.5	2.2	…	3.1
	23	52.8	5.6	11.7	0.5	45.5	2.1	4.8	2.0	…	2.9
	24	53.9	5.7	14.4	0.6	42.8	3.1	6.2	3.5	…	2.8
	25	**50.1**	**4.3**	**9.1**	**0.3**	**41.7**	**3.3**	**4.2**	**3.4**	**…**	**3.3**
高等学校	平成15年度	60.0	1.2	7.4	0.8	77.9	…	3.3	1.7	…	1.3
	21	58.0	2.6	9.8	0.5	57.6	2.9	3.9	1.6	…	1.4
	22	X	2.5	10.9	0.7	55.5	2.8	3.4	2.3	…	2.1
	23	66.8	3.6	12.7	0.9	56.2	2.6	6.4	2.0	…	1.4
	24	64.8	3.2	9.5	0.6	47.2	2.7	3.9	2.4	…	1.9
	25	**63.0**	**3.5**	**8.2**	**0.4**	**55.4**	**2.7**	**…**	**2.6**	**…**	**2.1**

注　1　心電図異常については、６歳、12歳、15歳のみ実施している。
　　2　寄生虫卵保有者については、５歳から８歳のみ実施している。
　　3　アトピー性皮膚炎については、平成17年度まではその他の疾病・異常のその他の疾病・異常として調査。
　　4　「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が５％以上、受検者数が100人（５歳は50人）未満または回答校が１校以下のため統計数値を公表していない。